

2014年12月10日

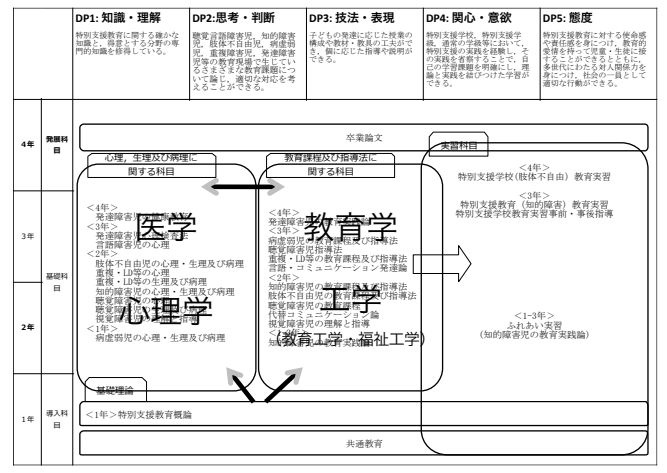
平成26年度 教育学部FDシンポジウム
授業時間外学習の促進

特別支援教育教員養成課程における 授業時間外学習の促進

苅田 知則
(特別支援教育講座)

1

特別支援教育教員養成課程 発達障害コースのカリキュラムマップ



2

代替コミュニケーション論

授業の到達目標

- 障がい疑似体験を通して、肢体不自由をはじめとした障がい児者の困難を共感的に理解する態度を身につける。
- 障がい児者のコミュニケーションを支援するAACやATの基本的知識について説明できる。
- 障がい特性・ニーズに合わせたAAC、ATの使用方を説明できる。
- 当事者の生活にあわせた支援機器のスイッチの工夫、操作画面の考案ができる。

関連領域

工学・心理学・医学

成績評価方法

- 毎時間、小テストを行う(3割)→教科書2冊の指定ページより
- 疑似体験終了後、省察レポートを課す(3割)→MoodleでのVTR視聴
- 講義の最終回に試験を行う(4割)→小テストの確認

受講のルール

障がい支援機器の疑似体験等で携帯電話を試用するため、授業時に持参すること。肢体不自由児者の学習支援を体系的に学ぶため、授業にはパソコン(携帯型ウェブ)、デジタルカメラ、ICレコーダーといった支援機器の持ち込みを許可する。使用したい場合は、授業時に申し出ること。→必要な時以外は紙媒体の資料は配らない

3

肢体不自由児の心理・生理及び病理

授業の到達目標

- 肢体不自由児に関する疫学(生理・病理)について概説できる。
- 肢体不自由児の身体機能・言語聴覚・摂食嚥下等の発達に関する専門的知識を説明できる。
- 肢体不自由児のニーズや適切な支援に興味を持ち、支援に必要な文献等を自ら検索し整理することができる。
- 肢体不自由児のニーズに合わせた支援・指導方法について、立案することができる。
- 肢体不自由児の生活を支援する社会制度・サービスについて説明することができる。

関連領域

心理学・医学

成績評価方法

- 毎時間、小テストを行う(3割)→教科書の指定ページより
- 医学的基礎知識について的小レポートを1回課す(2割)→教科書からの拡充
- グループワーク:成果発表を行い、発表内容・発表形式について評価を行う(2割)
- 罹患型脳性まひ、アテトーゼ型脳性まひ、摂食嚥下障害、言語指導
- 講義の最終回に試験を行う(3割)→小テストの確認

受講のルール

情報検索等で携帯電話を試用するため、授業時に持参すること。授グループワークにおいてはパソコンを使用するため、ソフトウェア(特にワープロソフト、プレゼンテーションソフト)の使用方を習得しておくこと。→必要な時以外は紙媒体の資料は配らないが、グループワークのスライド等をMoodleにおいてPDFをダウンロード可能に。

4

授業外学習について

小テスト・最終試験

- 小テスト(再生課題)は、点数の分散が大きい。
- 小テストをベースにした最終試験(再認課題)では、9割以上の受講生が80%以上を正答。

グループワーク・中間レポート

現職教員(大学院生)が加わっているグループと学部生だけのグループで達成度の差が大きい。→現職教員の発表内容を好例として評価しつつ、専門知識・技能を追加解説

感想

- 小テストで習熟度がわかり、よかった。
- 小テストで勉強した内容が授業の中で出てきたのでわかりやすかった。
- 最終試験も小テストの内容が主だったので、理解できていることが確認できてよかった(習熟度が確認でき達成感が得られた)

5

その他の授業の授業外学習

知的障害児の教育実践論

特別支援学級、通常の学級における実習(1~3年次前期)

特別支援学校での教育実習だけではなく、特別支援学級・通常の学級での支援の実態を理解するため。

発達障害児の健康教育:愛大GP

喫煙吸引等に関わる専門知識・手技について、Moodleで予習復習

シミュレーターを用いた手技の復習

東京都立特別支援学校2校への視察



6